安全データシート

オールサイド®土壌処理用

JIS Z 7253 : 2019 に準拠
作成日: 2022/07/14　改訂日: 2025/03/31

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称　：オールサイド®土壌処理用
整理番号　：AGL10616Ja_02

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途　：土壌処理用防蟻剤
使用上の制限　：推奨用途以外への使用は禁止する

会社情報

供給者の会社名称

三井化学クロップ＆ライフソリューション株式会社
国内ライフソリューション営業部
東京都中央区日本橋一丁目 19 番 1 号
T 03-5290-2820 - F 03-3231-1172

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
	発がん性	区分 2
環境有害性	水生環境有害性　短期(急性)	区分 2
	水生環境有害性　長期(慢性)	区分 1

*記載のないものは区分に該当しない、あるいは分類できない。

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)

注意喚起語 (GHS JP)　：警告
危険有害性 (GHS JP)　：飲み込むと有害(H302)
強い眼刺激(H319)
発がんのおそれの疑い(H351)
水生生物に毒性(H401)
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性(H410)

注意書き (GHS JP)

安全対策　：使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置	: 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313) 口をすすぐこと。(P330) 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313) 漏出物を回収すること。(P391)
保管	: 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	: 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

他の危険有害性

他の危険有害性	: 蚕、ミツバチに対して影響がある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 混合物
化学名	: 2’－ブロモ－2－フルオロ－4’－(ヘプタフルオロプロパン－2－イル)－3－(N－メチルベンズアミド)－6’－(トリフルオロメチル)ベンズアニリド混合物
別名	: テネベナール®製剤、ブロフラニリド製剤

名前	濃度 (%)	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法番号	安衛法番号	
ブロフラニリド	18.0	(3)-4744	4-(7)-2491	1207727-04-5
有機溶剤、界面活性剤等	82.0			

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	: 汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぐこと。 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 外観に変化が見られたり痛みが続く場合には、医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合	: 直ちに清浄な水で数分間注意深く洗うこと。 洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄すること。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 水で口の中を洗浄し、直ちに医師の診断／手当てを受けること。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。 毛布等で保温して安静に保つこと。
応急措置をする者の保護	: 救助者は有害物質に触れないよう、適切な保護具を着用すること。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療	: 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	耐アルコール泡、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
使ってはならない消火剤	:	強い水流は使用しない、棒状放水
火災危険性	:	引火性液体及び蒸気。
消火方法	:	安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。 呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。 火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止すること。 危険なくできる時は、燃焼の供給源を速やかに止めること。 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移すこと。 容器、周囲の設備等に散水して冷却すること。 消火活動は、可能な限り風上から行うこと。
消火時の保護具	:	適切な保護具を着用して作業する。 自給式呼吸器。 完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置	:	安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

非緊急対応者

保護具	:	推奨される個人用保護具を着用する。
応急処置	:	漏出エリアを換気する。 裸火、火花禁止、禁煙。 皮膚、眼との接触を避ける。

緊急対応者

保護具	:	適切な保護具を着用して作業する。 詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。 漏出物との接触及び吸入を避けること。
応急処置	:	不要な職員を退避させる。 安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	:	環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法	:	流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。 可能であればリスクなく漏出をせき止める。 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収すること。 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理すること。 水上に流出した非水溶性の製品は吸収材を使用して回収すること。
浄化方法	:	本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
二次災害の防止策	:	付近の着火源となるものを速やかに取り除くこと。 危険なくできる時は、漏出源を遮断し、漏れを止めること。

その他の情報 : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 作業所の十分な換気を確保する。
屋内で取り扱う場合は、「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行う。

安全取扱注意事項 : 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
容器を接地すること／アースをとること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。
防爆型装置を使用する。
個人用保護具を着用する。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
皮膚、眼との接触を避ける。
容器を転倒、落下させ、衝撃を加える、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしないこと。

接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」記載の混触危険物質との接触及び保管を避けること。

衛生対策 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗うこと。手袋等の汚染された保護具を持ち込まないこと。

保管

安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。
涼しいところに置くこと。
容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
食品、飲料、動物用飼料とは区別して保管すること。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。
直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけること。
法規に規定された基準に従い保管すること。

安全な容器包装材料 : 樹脂製容器。

技術的対策 : 容器を接地すること／アースをとること。

容器包装材料 : 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する、屋内で取り扱う場合には、局所排気装置および／または全体換気装置を使用する。
取り扱う場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

個人用保護具 : 推奨される個人用保護具を着用する。

呼吸用保護具 : 保護マスク

手の保護具 : 化学防護手袋（不浸透性保護用手袋）

眼の保護具 : 保護眼鏡、ゴーグル、防災面

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する、安全帽子、化学防護服（不浸透性保護衣）、化学防護長靴等

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 淡黄色－黄色澄明
臭い	: わずかな特異臭
pH	: 5 – 6 (20℃、原液)
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: 122 ℃
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: GHS の引火性液体区分には該当しない。
蒸気圧	: データなし
相対密度	: 1.06 (20℃)
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
粘性率	: 21.3 mPa·s
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 高温面との接触を避ける。熱。炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 燃焼時、有害ガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 飲み込むと有害
急性毒性 (経皮)	: 区分に該当しない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外)(気体) 区分に該当しない(分類対象外)(蒸気) 区分に該当しない (粉じん、ミスト)

オールサイド®土壌処理用	
LD50 経口 ラット	> 300 – ≤ 2000 mg/kg (雌)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg (雌)
LC50 吸入 – ラット (粉じん / ミスト)	> 5 mg/L/4h

皮膚腐食性／刺激性 : 区分に該当しない
ウサギ 軽度刺激性
紅斑 7 日後までに消失

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 強い眼刺激
ウサギ 中等度刺激性
虹彩充血 24 時間後まで、分泌物 72 時間後まで、結膜発赤 7 日後まで、角膜混濁及び結膜浮腫 10 日後までに消失

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 区分に該当しない
モルモット 陰性

生殖細胞変異原性 : 分類できない

ブロフラニリド	
生殖細胞変異原性	Ames 試験 陰性、染色体異常試験 陰性、マウス小核試験 陰性、HPRT 遺伝子突然変異試験 陰性

発がん性 : 発がんのおそれの疑い

ブロフラニリド	
発がん性	動物を用いた発がん性試験においてラットに対する発がん性が示唆された。 [区分 2]

生殖毒性 : 分類できない

ブロフラニリド	
生殖毒性	ラット 繁殖毒性試験 陰性 ラット、ウサギ 催奇形性試験 陰性

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 分類できない

ブロフラニリド	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラット急性毒性試験の結果、ガイダンス値の範囲内において投与の毒性影響は認められなかった。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない

ブロフラニリド	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期毒性動物試験の結果、ガイダンス値の範囲内において投与の毒性影響は認められなかった。

誤えん有害性 : 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 水生生物に毒性
魚類の急性データに基づき、区分 2 とした。

水生環境有害性 長期(慢性) : 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
区分 1 のブロフラニリドを 18.0%含む。

オールサイド®土壌処理用	
LC50 - 魚 [1]	3.16 mg/L コイ

オールサイド®土壌処理用	
EC50 – 甲殻類 [1]	204 mg/L ミジンコ

ブロフラニリド	
LC50 – 魚 [1]	0.359 mg/L ニジマス
LC50 – 魚 [2]	0.246 mg/L ブルーギル
LC50 – 魚 [3]	> 0.498 mg/L コイ
LC50 – 甲殻類	24 ng/L ヨコエビ （96h）
EC50 – 甲殻類 [1]	> 0.332 mg/L ミジンコ
EC50 – 他の水生生物 [1]	0.00016 mg/L ユスリカ
ErC50 藻類	> 0.60 mg/L 緑藻
ErC50 他の水生植物	> 0.33 mg/L 海産珪藻
NOEC 魚 慢性	0.051 mg/L ファットヘッドミノー（33 日）
NOEC 魚 慢性[2]	0.010 mg/L シープヘッドミノー（34 日）
NOEC 甲殻類 慢性	0.00584 mg/L ミジンコ（21 日）
NOEC 甲殻類 慢性[2]	6.3 ng/L ヨコエビ（28 日）

残留性・分解性

オールサイド®土壌処理用	
残留性・分解性	データなし

生体蓄積性

オールサイド®土壌処理用	
生体蓄積性	データなし

土壌中の移動性

オールサイド®土壌処理用	
土壌中の移動性	データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物）、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

推奨製品/梱包処分 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。

残余廃棄物 : 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適正に処理すること。
廃棄処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。

汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託すること。
地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。 空の容器を再利用しないこと。

14. 輸送上の注意

UN RTDG に準ずる

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

国連番号(UN RTDG)	: 3082
正式品名 (UN RTDG)	: 環境有害物質（液体）(ブロフラニリド混合物)
容器等級(UN RTDG)	: III
輸送危険物分類(UN RTDG)	: 9
危険物ラベル (UN RTDG)	: 9

クラス (UN RTDG)	: 9
少量危険物 (UN RTDG)	: 5L
微量危険物 (UN RTDG)	: E1
包装指令 (UN RTDG)	: P001、IBC03、LP01
特別包装規定 (UN RTDG)	: PP1
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/要件 (UN RTDG)	: T4
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/特別要件 (UN RTDG)	: TP1、TP29

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

国内規制

海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	: 171
その他の情報	: 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1・第4類）

船舶安全法	: 有害性物質（危規則第2，3条危険物告示別表第1）
航空法	: その他の有害物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	: 非該当

16. その他の情報

オールサイド、テネベナールは三井化学クロップ＆ライフソリューション株式会社の登録商標です。

免責条項　当該シートに記載されている情報は現時点で入手した資料に基づいて作成しております。記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意して下さい。含有量、物理的及び化学的性質、危険有害性等の記載内容は情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。
また、製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負いかねます。
なお、当該シートは本製品にのみ適用され、本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがありますので、ご注意の上、お取り扱い願います。